



令和  
7年度

## 地域支え合い活動委員会報告会&研修会を開催!!

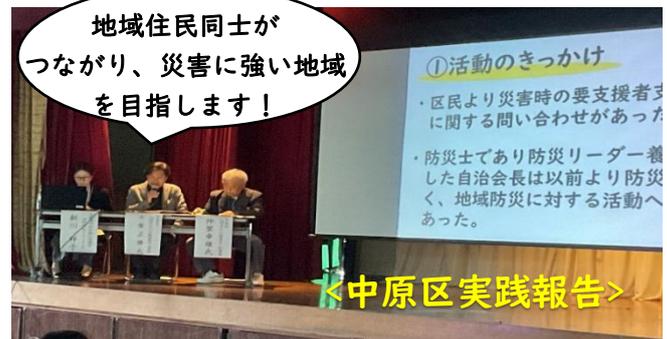
「“もしも”に強くなる“いつも”の見守り」をテーマに、去る1月30日宜野湾市社会福祉センターにて、研修・報告会を開催しました。今年度は、NPO法人まちなか研究所わくわくの宮道喜一(みやじきいち)代表理事を講師にお迎えし“もしも”の事態に備えるためには、地域で日頃から顔見知りの関係を築くことや、ちょっとした変化に気づく関係づくりが大切であることが伝えられました。

実践報告では、中原区地域支え合い活動委員会から、大屋正勝(おおやまさかつ)委員長と仲里幸雄(なかざとさちお)副委員長による「名簿でつながる“ふだん”と“もしも”」と題し、避難行動要支援者の名簿を活用した取り組みについて報告がありました。また大山区、宜野湾区、普天間1区からは独自で行う見守り・気かけ合う仕組みづくりや災害に備える活動について報告があり、日頃のつながりが“いざ”という時に生きることが再確認することができました。

グループワークでは、参加者それぞれの地域で行っている“いつもの見守り”を振り返りながら意見交換を行いました。見守りや手助けが必要な人にとって優しいまちは、誰にとっても優しいまちであり、今後の支え合い活動に向けた理解を深めることができました。



<研修会の様子>



<中原区実践報告>

「つながりマップ」を活用して本人を取り巻く環境を見える化したことで多くの気づきがありました。

<大山区>

独自の「要援護者登録同意書」を活かし、いざというときもスムーズに対応することができました。

<宜野湾区>

「防災ミーティング」を開催したことで、地域が抱える防災への課題を話し合う良い機会となりました。

<普天間1区>



<グループワークの様子>

